

資料編

- 中山間地域に関する住民意識調査等の状況
- 広島県中山間地域振興条例



中山間地域に関する住民意識調査等の状況

◆データ表記について

※ 表1～表16における「中山間地域」及び「都市部」は、「中山間地域に関する住民意識調査」(R2広島県地域政策局)の実施地域である次の地域を指す。

中山間地域：府中市, 庄原市, 安芸高田市, 江田島市, 安芸太田町, 大崎上島町, 世羅町

都市部：広島市, 福山市

※ 表17～表34における「全域過疎市町」の数値は、経年分も含め、令和2(2020)年時点で全域過疎市町となっている市町に係る数値である。

■ 地域への愛着や満足感

- 中山間地域の住民は、約8割が地域に愛着を持っている。また、約7割が生活に概ね満足感を抱き、地域に住み続けたいと考えている。特に若い世代(18～40代)においては、他世代に比べて、地域への愛着や生活の満足感、中山間地域への今後の居住意向が、前回調査から大きく伸びている。
- 居住地の今後の生活環境については、都市部では、約半分の住民があまり変わらないと考えている一方で、中山間地域では、約6割の住民が悪くなっていくと考えている。

【表1】居住地への愛着

(単位:%)

区分	愛着がある・どちらかという愛着がある		どちらかという愛着がない・愛着がない		どちらとも言えない		
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
全体 (H25調査)	82.5 (81.9)	81.9 (77.5)	8.5 (7.7)	7.9 (8.9)	9.0 (10.3)	10.2 (13.6)	
内 訳	18～40代	79.0 (68.8)	79.5 (69.9)	13.0 (14.8)	11.9 (15.4)	8.0 (16.4)	8.6 (14.7)
	50～60代	82.1 (83.6)	81.2 (82.9)	8.0 (5.8)	8.5 (4.6)	9.9 (10.5)	10.2 (12.5)
	70代以上	87.2 (90.4)	84.8 (81.1)	3.4 (4.2)	3.6 (5.4)	9.4 (5.4)	11.5 (13.5)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

【表2】地域生活の満足感

(単位:%)

区分	満足している・どちらかという満足している		不満である・どちらかという不満である		どちらとも言えない		
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
全体 (H25調査)	67.6 (59.7)	86.5 (83.5)	23.6 (23.8)	8.9 (8.9)	8.8 (16.5)	4.5 (7.6)	
内 訳	18～40代	66.0 (37.5)	86.3 (81.9)	27.2 (39.8)	9.9 (11.1)	6.9 (22.7)	3.9 (6.9)
	50～60代	66.6 (65.7)	84.6 (87.5)	23.2 (21.5)	10.2 (5.3)	10.2 (12.8)	5.2 (7.2)
	70代以上	70.8 (70.5)	88.8 (78.4)	19.2 (13.9)	6.8 (12.2)	10.0 (15.7)	4.4 (9.5)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

【表3】今の居住地に住み続けたいか

(単位:%)

区分	住み続けたい・どちらかという住み続けたい		別の地域に住みたい・どちらかといえば別の地域に住みたい		どちらとも言えない		
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
全体 (H25調査)	72.7 (72.1)	81.4 (80.1)	16.2 (17.4)	9.9 (12.0)	11.1 (10.6)	8.6 (7.8)	
内 訳	18～40代	60.4 (49.2)	72.8 (75.9)	23.8 (33.3)	15.9 (17.0)	15.9 (17.5)	11.3 (7.1)
	50～60代	77.0 (79.4)	81.0 (81.4)	13.7 (12.9)	9.3 (9.7)	9.3 (7.7)	9.6 (9.0)
	70代以上	84.6 (82.8)	90.4 (85.9)	8.6 (9.3)	4.7 (7.0)	6.7 (7.9)	5.0 (7.0)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

【表4】今後の居住地の生活環境

(単位:%)

区分	非常に良くなっていくと思う・少しは良くなっていくと思う		少し悪くなっていくと思う・非常に悪くなっていくと思う		あまり変わらないと思う		分からない		
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
全体 (H25調査)	6.8 (13.6)	22.0 (24.4)	57.0 (53.9)	16.2 (17.9)	32.3 (28.7)	55.1 (52.8)	3.8 (3.9)	6.7 (4.9)	
内 訳	18～40代	9.4 (12.5)	25.9 (31.9)	53.0 (55.5)	16.6 (13.2)	34.0 (28.9)	51.2 (49.3)	3.7 (3.1)	6.2 (5.6)
	50～60代	5.0 (11.0)	22.4 (17.2)	64.3 (61.0)	21.7 (21.2)	27.8 (25.0)	51.5 (58.9)	2.9 (2.9)	4.3 (2.6)
	70代以上	5.2 (17.1)	17.8 (24.3)	56.1 (45.1)	10.2 (20.3)	34.0 (32.3)	62.3 (47.3)	4.7 (5.5)	9.6 (8.1)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

■ 地域での暮らしの印象

- 住民の今の居住地における生活の印象については、プラス面として「自然が豊か」、
「住民相互のつながりが強い」、
「治安や風紀が良い」という点、マイナス面として
「働くところが少ない」、
「日常生活施設」、
「生活インフラ」、
「移動手段」及び
「飲食・娯楽施設」が不便という点について、
中山間地域と都市部において回答傾向に大きな差がある。

【表5】生活の印象 プラス面（上位項目）

（単位：%）

区分		当てはまる・どちらかという当てはまる		当てはまらない・どちらかという当てはまらない		どちらとも言えない		
		中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
暮らしやすい	全体 (H25調査)	62.2 (46.8)	88.8 (87.9)	14.7 (20.5)	3.2 (3.6)	23.1 (32.7)	8.1 (8.5)	
	内訳	18～40代	56.8 (43.2)	88.6 (88.8)	20.1 (32.8)	3.9 (3.5)	23.1 (24.0)	7.5 (7.7)
		50～60代	63.1 (48.2)	89.7 (90.7)	12.7 (13.4)	3.0 (2.0)	24.2 (38.4)	7.3 (7.3)
		70代以上	68.1 (48.4)	88.0 (79.7)	9.7 (18.1)	2.7 (7.2)	22.2 (33.5)	9.4 (13.0)
自然が豊か	全体 (H25調査)	92.8 (90.9)	33.8 (24.2)	2.0 (2.4)	36.2 (56.9)	5.2 (6.7)	30.0 (18.9)	
	内訳	18～40代	95.0 (93.8)	29.7 (18.9)	1.9 (1.6)	39.9 (58.0)	3.2 (4.7)	30.5 (23.1)
		50～60代	89.7 (94.1)	30.8 (27.7)	2.2 (1.2)	37.8 (57.4)	8.1 (4.7)	31.4 (14.9)
		70代以上	92.9 (85.0)	41.3 (28.1)	1.9 (4.6)	30.7 (53.1)	5.2 (10.5)	28.0 (18.8)
治安や風紀が良い	全体 (H25調査)	85.8 (84.5)	59.6 (47.8)	2.9 (2.2)	12.0 (22.2)	11.4 (13.2)	28.4 (30.0)	
	内訳	18～40代	84.3 (82.8)	49.8 (39.2)	3.9 (3.9)	14.4 (29.4)	11.7 (13.3)	35.8 (31.5)
		50～60代	86.6 (86.7)	59.1 (52.7)	1.3 (1.2)	12.8 (16.7)	12.2 (12.0)	28.1 (30.7)
		70代以上	87.0 (83.6)	70.1 (55.2)	2.7 (2.0)	8.7 (19.4)	10.3 (14.5)	21.1 (25.4)
落ち着いた雰囲気がある	全体 (H25調査)	83.4 (75.3)	61.8 (51.8)	3.2 (4.1)	12.7 (18.7)	13.5 (20.6)	25.5 (29.5)	
	内訳	18～40代	84.8 (83.5)	60.1 (49.0)	3.8 (3.9)	14.0 (21.0)	11.4 (12.6)	25.9 (30.1)
		50～60代	81.9 (67.9)	60.1 (52.0)	3.3 (3.7)	14.2 (18.0)	14.9 (28.4)	25.6 (30.0)
		70代以上	82.9 (76.5)	65.3 (57.6)	2.1 (4.6)	9.5 (15.2)	14.9 (19.0)	25.2 (27.3)
住民相互のつながりが強い	全体 (H25調査)	51.7 (52.9)	24.3 (17.1)	12.6 (13.2)	34.8 (41.9)	35.8 (33.9)	40.9 (41.0)	
	内訳	18～40代	52.3 (59.1)	24.2 (17.5)	12.8 (9.4)	41.5 (45.5)	35.0 (31.5)	34.3 (37.1)
		50～60代	46.5 (50.0)	19.8 (16.2)	13.4 (14.5)	37.8 (39.2)	40.2 (35.5)	42.4 (44.6)
		70代以上	55.3 (51.0)	29.3 (18.5)	11.7 (15.0)	24.8 (40.0)	33.0 (34.0)	45.9 (41.5)
伝統文化などが継承されている	全体 (H25調査)	51.2 (54.3)	28.1 (23.5)	18.4 (15.2)	35.9 (47.6)	30.3 (30.5)	36.0 (28.8)	
	内訳	18～40代	51.2 (56.7)	27.8 (28.2)	17.8 (11.0)	38.8 (45.1)	31.0 (32.3)	33.4 (26.8)
		50～60代	50.0 (57.3)	26.6 (18.5)	20.3 (14.6)	37.4 (51.7)	29.6 (28.0)	36.0 (29.8)
		70代以上	52.4 (49.0)	30.0 (25.0)	17.6 (19.5)	31.2 (43.8)	30.1 (31.5)	38.7 (31.3)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

※ 上位項目：「当てはまる・どちらかという当てはまる」との回答割合が「中山間地域」と「都市部」とを比べ、20ポイント以上の差があったもの。

【表6】生活の印象 マイナス面（上位項目）

（単位：％）

区 分		当てはまる・どちらかという当てはまる		当てはまらない・どちらかという当てはまらない		どちらとも言えない		
		中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
働くところが少ない	全体 (H25調査)	76.7 (82.1)	18.8 (23.9)	7.4 (9.2)	40.9 (39.4)	15.8 (8.7)	40.3 (36.6)	
	内 訳	18～40代	78.9 (89.7)	18.2 (18.1)	6.4 (4.0)	49.1 (49.3)	14.8 (6.3)	32.7 (32.6)
		50～60代	77.4 (86.5)	17.9 (24.7)	6.3 (9.8)	43.4 (34.0)	16.2 (3.7)	38.7 (41.3)
		70代以上	73.4 (70.7)	20.7 (36.1)	9.8 (12.9)	28.9 (29.5)	16.8 (16.3)	50.3 (34.4)
買物・医療・教育など日常生活施設が不便	全体 (H25調査)	60.1 (65.6)	9.7 (11.6)	20.6 (19.2)	78.2 (76.2)	19.3 (15.2)	12.1 (12.2)	
	内 訳	18～40代	63.5 (78.9)	12.6 (11.8)	18.8 (10.2)	78.5 (76.4)	17.8 (10.9)	9.0 (11.8)
		50～60代	59.3 (65.1)	8.2 (8.0)	20.7 (21.1)	79.9 (80.0)	20.0 (13.9)	12.0 (12.0)
		70代以上	56.5 (55.2)	8.2 (19.4)	22.7 (24.7)	76.2 (67.2)	20.7 (20.1)	15.6 (13.4)
道路、上下水道、電気通信など生活インフラが不便	全体 (H25調査)	38.1 (38.7)	5.0 (6.6)	37.9 (34.9)	83.9 (86.2)	24.0 (26.4)	11.1 (7.2)	
	内 訳	18～40代	42.2 (46.9)	7.8 (7.6)	34.8 (26.6)	82.4 (85.4)	22.9 (26.6)	9.9 (6.9)
		50～60代	38.2 (38.8)	4.0 (6.0)	37.9 (36.4)	85.4 (88.7)	23.9 (24.8)	10.5 (5.3)
		70代以上	32.7 (31.8)	3.0 (6.0)	42.1 (40.4)	84.1 (82.1)	25.2 (27.8)	12.8 (11.9)
交通機関など移動手段が不便	全体 (H25調査)	68.7 (71.9)	13.3 (17.4)	14.9 (14.9)	74.7 (74.9)	16.4 (13.1)	12.0 (7.7)	
	内 訳	18～40代	76.3 (88.3)	18.7 (22.2)	10.2 (3.1)	70.8 (69.4)	13.5 (8.6)	10.4 (8.3)
		50～60代	63.5 (69.5)	11.9 (12.6)	16.1 (18.6)	76.5 (80.1)	20.5 (12.0)	11.6 (7.3)
		70代以上	63.7 (61.0)	9.4 (17.9)	19.9 (20.8)	76.6 (74.6)	16.4 (18.2)	13.9 (7.5)
飲食や娯楽のための施設が不便	全体 (H25調査)	68.1 (64.7)	17.2 (25.2)	13.1 (17.4)	61.2 (53.2)	18.8 (17.9)	21.5 (21.6)	
	内 訳	18～40代	77.8 (76.6)	22.0 (29.2)	9.1 (10.2)	62.5 (47.2)	13.1 (13.3)	15.5 (23.6)
		50～60代	66.3 (70.5)	16.3 (22.7)	14.8 (15.7)	60.3 (59.3)	18.9 (13.9)	23.3 (18.0)
		70代以上	57.4 (48.4)	13.1 (22.4)	16.7 (25.5)	61.0 (52.2)	25.9 (26.1)	25.9 (25.4)

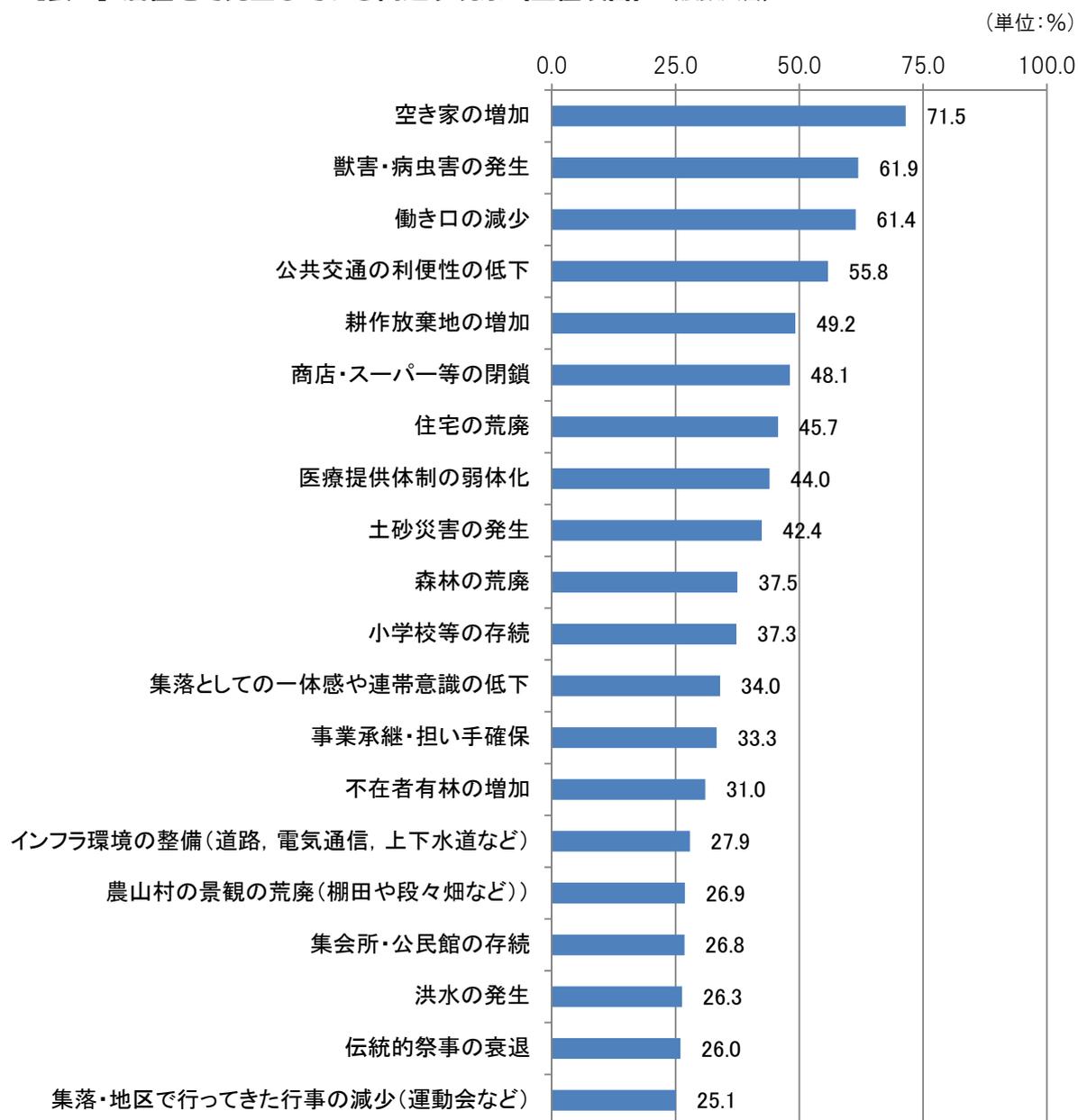
※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

※ 上位項目：「当てはまる・どちらかという当てはまる」との回答割合が「中山間地域」と「都市部」とを比べ、20ポイント以上の差があったもの。

■ 地域における課題

- ・ 中山間地域の多くの集落において発生している問題としては、生活基盤に関する「空き家の増加」や「公共交通の利便性の低下」, 「商店・スーパー等の閉鎖」などに加え, 「獣害・病虫害の発生」, 「働き口の減少」, 「耕作放棄地の増加」など, 産業基盤の維持に関する意見が上位に挙がっている。

【表7】居住地で発生している問題や現象（上位項目）（複数回答）



※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)による。

※ 上位項目:居住地において発生している問題や現象として回答された上位20項目。

■ 地域における必要な取組

- 中山間地域の住民が居住地で必要と考える取組は多岐にわたる。特に「医療介護」及び「移動手段」の確保充実に取り組む必要があると答えた意見は、前回調査と同様8割を超えている。

【表8】居住地で必要と考える取組（上位項目）

（単位：％）

区分		自己負担が生じてでも取り組む必要を感じる	取り組む必要を感じるが自己負担するほどではない	それほど取り組む必要を感じない	取り組む必要を感じない	どちらとも言えない
山林、家屋、空き地など地域環境の管理保全	全体 (H25調査)	28.5 (22.2)	46.5 (49.7)	5.3 (5.6)	1.8 (3.6)	17.9 (18.9)
	内 18～40代	22.1 (17.3)	50.1 (41.8)	5.7 (8.2)	2.5 (6.1)	19.5 (26.5)
	内 50～60代	32.7 (23.9)	47.9 (58.2)	4.2 (1.5)	1.1 (3.0)	14.1 (13.4)
	内 70代以上	32.8 (24.5)	40.2 (46.2)	5.8 (8.5)	1.5 (1.9)	19.7 (18.9)
見守りや声掛けなどの生活サポート	全体 (H25調査)	21.8 (22.5)	51.4 (50.6)	6.2 (6.3)	2.0 (1.5)	18.6 (19.2)
	内 18～40代	18.4 (18.2)	53.1 (48.5)	8.8 (9.1)	3.1 (3.0)	16.7 (21.2)
	内 50～60代	17.8 (21.5)	56.6 (54.1)	4.7 (5.2)	1.2 (0.0)	19.8 (19.3)
	内 70代以上	30.6 (28.0)	43.9 (48.0)	4.3 (5.0)	1.2 (2.0)	20.0 (17.0)
地域への若者などの移住促進	全体 (H25調査)	25.4 (27.8)	49.1 (54.9)	2.9 (2.4)	3.3 (1.8)	19.2 (13.1)
	内 18～40代	26.1 (28.6)	52.0 (55.1)	3.1 (2.0)	3.9 (2.0)	14.9 (12.2)
	内 50～60代	25.9 (28.9)	51.4 (60.7)	1.5 (1.5)	2.3 (0.0)	18.9 (8.9)
	内 70代以上	24.0 (25.5)	43.0 (47.1)	3.9 (3.9)	3.5 (3.9)	25.6 (19.6)
働く場の確保	全体 (H25調査)	26.0 (31.7)	53.3 (57.1)	2.5 (1.5)	1.5 (1.5)	16.6 (8.3)
	内 18～40代	28.0 (33.3)	55.9 (59.6)	1.7 (0.0)	2.0 (1.0)	12.4 (6.1)
	内 50～60代	25.0 (32.3)	56.5 (60.9)	2.7 (0.0)	0.8 (0.0)	15.0 (6.8)
	内 70代以上	24.4 (29.2)	46.5 (50.0)	3.5 (4.7)	1.6 (3.8)	24.0 (12.3)
鳥獣被害対策	全体 (H25調査)	37.3 (37.8)	41.4 (38.9)	4.0 (4.4)	1.9 (2.7)	15.3 (16.2)
	内 18～40代	27.1 (25.3)	44.1 (37.4)	4.8 (5.1)	3.1 (5.1)	20.9 (27.3)
	内 50～60代	40.4 (42.2)	43.8 (43.0)	3.0 (4.4)	1.1 (0.0)	11.7 (10.4)
	内 70代以上	48.4 (43.8)	35.0 (35.2)	3.9 (3.8)	1.2 (3.8)	11.4 (13.3)
教育環境の確保	全体 (H25調査)	23.0 (24.5)	47.7 (47.0)	4.6 (7.0)	3.0 (2.4)	21.6 (19.1)
	内 18～40代	30.7 (31.0)	45.1 (51.0)	5.1 (6.0)	2.8 (2.0)	16.3 (10.0)
	内 50～60代	16.1 (22.3)	56.7 (46.9)	3.4 (6.2)	3.1 (0.0)	20.7 (24.6)
	内 70代以上	19.3 (21.0)	42.2 (43.0)	5.2 (9.0)	3.2 (6.0)	30.1 (21.0)
医療介護の確保充実	全体 (H25調査)	34.2 (35.0)	50.4 (49.0)	2.1 (4.2)	1.7 (1.2)	11.6 (10.7)
	内 18～40代	34.5 (35.0)	52.0 (51.0)	2.0 (5.0)	1.7 (2.0)	9.9 (7.0)
	内 50～60代	33.3 (33.1)	52.3 (51.1)	1.1 (3.0)	1.9 (0.0)	11.4 (12.8)
	内 70代以上	34.8 (37.5)	46.2 (44.2)	3.2 (4.8)	1.6 (1.9)	14.2 (11.5)
交通機関など移動手段の確保充実	全体 (H25調査)	28.0 (29.2)	53.4 (53.3)	2.4 (4.5)	1.9 (2.1)	14.3 (11.0)
	内 18～40代	32.7 (32.3)	51.5 (52.5)	2.3 (4.0)	2.3 (2.0)	11.3 (9.1)
	内 50～60代	22.2 (26.9)	59.4 (59.0)	2.3 (3.0)	1.5 (1.5)	14.6 (9.7)
	内 70代以上	27.4 (29.1)	49.8 (46.6)	2.7 (6.8)	1.9 (2.9)	18.3 (14.6)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

※ 上位項目：「自己負担が生じてでも取り組む必要を感じる」、「取り組む必要を感じるが自己負担するほどではない」との回答が全体で70.0%を超えているもの。

■ 都市部住民の意識

- 都市部の住民は、約9割が中山間地域を大切だと答え、約1割が「いずれ住むつもりでいる」又は「住んでみたいと思う」と答えている。
- 中山間地域との関わりについては、前回調査と比べて、「出身地である」、「出身地ではないが住んだことがある」、「親族が居住している」など、中山間地域にルーツを持つ都市部の住民の割合が低下している。
- 中山間地域の活動で行っても良いと思うものは、「地域の産品を購入」、「観光目的での訪問」を選ぶ回答が多く、他の項目のほとんどは2割以下に留まっていることから、地域づくりへの幅広い参画意欲の向上を図る必要がある。

【表9】中山間地域への意識（都市部のみ）

（単位：％）

区分		大切だと思う・どちらかという大切だと思う	大切だと思わない・どちらかという大切だと思わない	どちらとも言えない
全体（H25調査）		87.9 (84.5)	1.4 (1.4)	10.7 (14.2)
内 訳	18～40代	83.0 (83.3)	2.4 (2.1)	14.6 (14.6)
	50～60代	88.5 (84.9)	1.2 (1.3)	10.4 (13.8)
	70代以上	92.3 (85.9)	0.6 (0.0)	7.1 (14.1)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

【表10】中山間地域への居住意向（都市部のみ）

（単位：％）

区分		いずれ住むつもりでいる	住んでみたいと思う	住んでみたいと思わない	分からない
全体（H25調査）		2.3 (1.6)	12.6 (18.1)	57.5 (57.1)	27.7 (23.1)
内 訳	18～40代	2.1 (2.1)	13.7 (15.3)	53.4 (56.3)	30.7 (26.4)
	50～60代	2.6 (2.0)	13.5 (21.5)	57.5 (55.0)	26.4 (21.5)
	70代以上	2.1 (0.0)	10.5 (16.9)	61.6 (63.4)	25.8 (19.7)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。

【表11】中山間地域との関わり（都市部のみ）（複数回答）

（単位：%）

区分	出身地である	出身地ではないが住んだことがある	住んでいないが通勤や通学で通っている	親族が居住している	家屋や田畑などの資産を保有している	関わりは無い	その他	
全体 (H25調査)	13.8 (19.2)	4.5 (5.9)	1.7 (1.1)	23.1 (33.8)	5.0 (4.9)	32.3 (45.4)	4.6 (6.2)	
内 訳	18～40代	9.0 (14.6)	4.5 (6.3)	1.5 (1.4)	24.5 (31.3)	2.7 (3.5)	34.0 (50.0)	2.4 (7.6)
	50～60代	13.5 (21.7)	4.1 (3.3)	2.4 (1.3)	23.2 (38.8)	5.6 (4.6)	30.6 (42.8)	6.8 (5.3)
	70代以上	18.7 (23.0)	4.9 (10.8)	1.1 (0.0)	21.6 (28.4)	6.6 (8.1)	32.2 (41.9)	4.6 (5.4)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。ただし、R2調査の回答項目は、H25調査と同一のものを抜粋している。

【表12】中山間地域での活動で行っても良いと思うもの（都市部のみ）（複数回答）

（単位：%）

区分	観光目的での訪問	地域の産品を購入	農業体験などの交流事業に参加	伝統文化行事や芸術活動に参加	自然保護活動に参加	
全体 (H25調査)	64.7 (47.0)	65.3 (73.5)	19.1 (14.3)	18.1 (17.0)	21.1 (20.3)	
内 訳	18～40代	79.5 (53.5)	69.9 (79.9)	32.1 (27.1)	24.4 (22.9)	21.7 (23.6)
	50～60代	70.1 (52.6)	75.1 (75.0)	18.6 (8.6)	20.4 (17.1)	26.9 (21.7)
	70代以上	44.3 (23.0)	50.8 (58.1)	5.8 (1.4)	9.2 (5.4)	14.1 (10.8)

区分	貸農園などの農作業	お年寄りや障害者などの支援活動に参加	まちづくりの活動に参加	特に無い	その他	
全体 (H25調査)	11.6 (13.5)	9.2 (9.5)	8.6 (4.9)	21.0 (12.7)	1.4 (1.4)	
内 訳	18～40代	16.7 (14.6)	11.6 (11.8)	10.1 (5.6)	13.1 (5.6)	0.9 (1.4)
	50～60代	13.9 (18.4)	9.8 (7.2)	9.5 (3.9)	16.6 (7.2)	1.2 (0.7)
	70代以上	4.0 (1.4)	6.1 (9.5)	5.8 (5.4)	33.3 (37.8)	2.1 (2.7)

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)及び「地域の暮らしに対する意識調査」(H25)による。ただし、R2調査の回答項目は、H25調査と同一のものを抜粋している。

■ 将来への不安

- ・ 将来の生活について、「とても不安なことがある」及び「どちらかという不安なことがある」を合わせて、中山間地域に住む約9割の住民が「不安」を抱いている。
- ・ 「自身の健康」や「家族の健康」，「収入」などが不安要素として上位に挙がっているほか，「家屋や田畑の管理」，「生活交通」，「有害鳥獣の発生」などが，都市部を大きく上回る中山間地域特有の不安要素として挙がっている。

【表13】 将来への不安

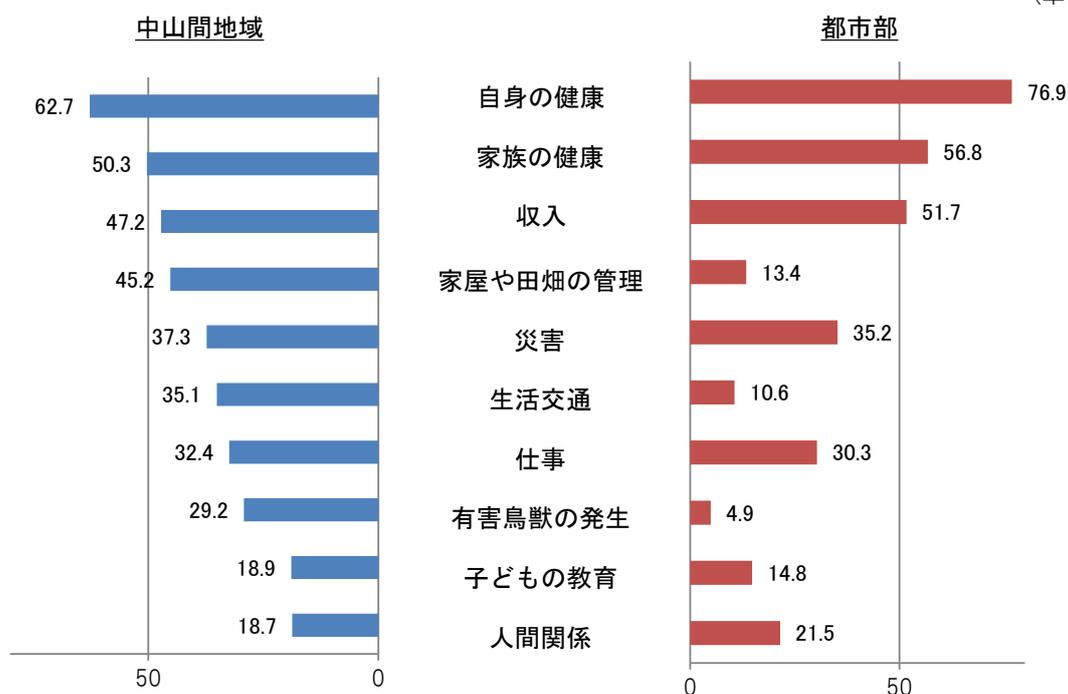
(単位:%)

区分	とても不安なことがある		どちらかという不安なことがある		不安なことはない		
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	
全体	31.8	19.6	61.2	63.9	7.0	16.5	
内訳	18～40代	31.4	21.5	60.3	59.2	8.2	19.3
	50～60代	33.6	20.4	61.6	69.5	4.7	10.2
	70代以上	30.6	16.9	62.0	63.1	7.4	20.0

※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)による。

【表14】 将来への不安の要素 (複数回答)

(単位:%)

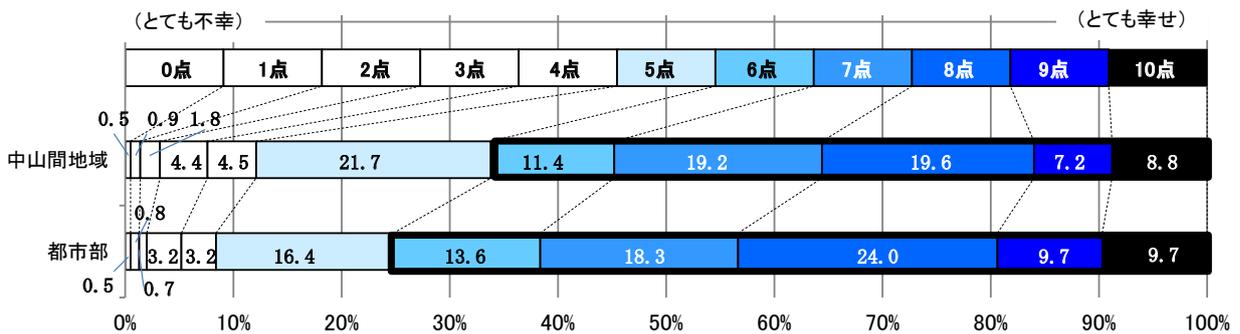


※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)による。

■ 幸福感

- 中山間地域では約6割の住民が「幸せである」と感じており、重視する要素としては「健康状況」が最も多く挙がっている。特に、現役世代である18～40代では、仕事の充実や就業状況といった「仕事面の要素」と自由な時間や友人関係、充実した余暇といった「暮らし面の要素」が他世代を大きく上回っている。

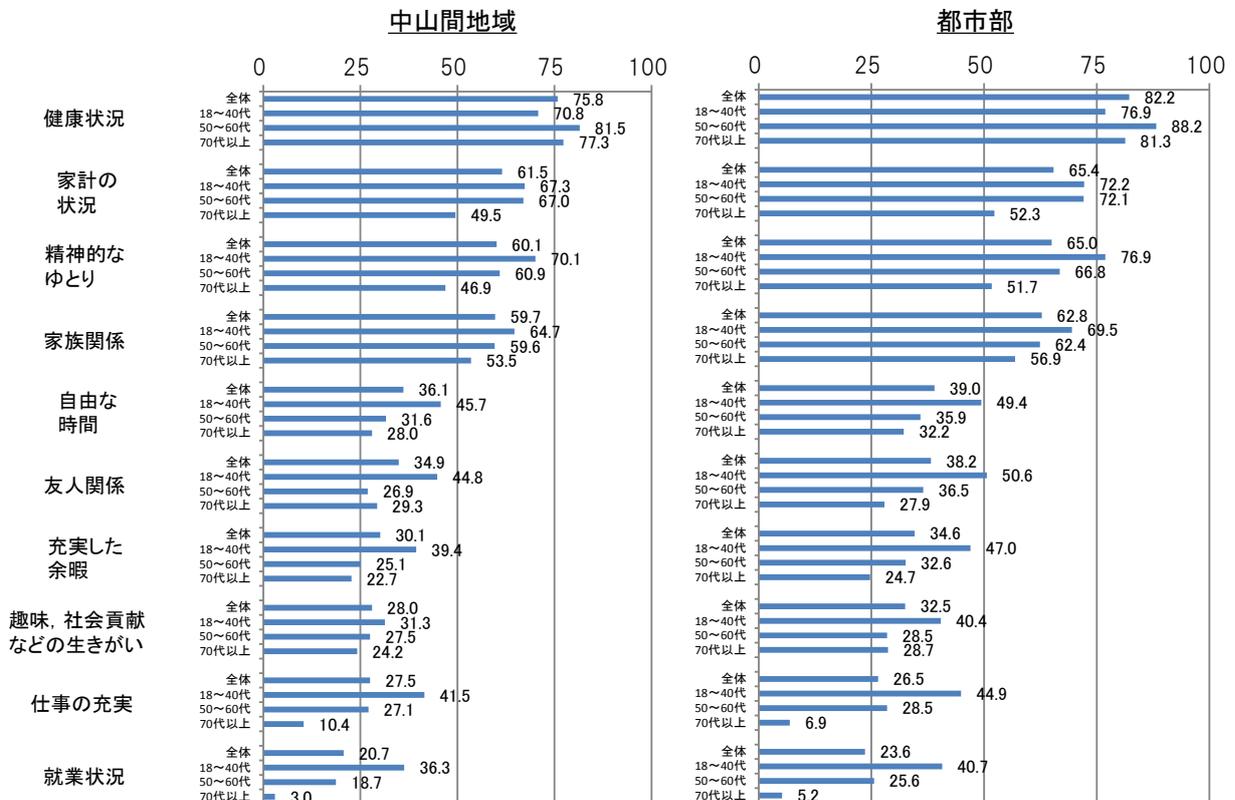
【表15】幸福度



※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)による。

【表16】重視する要素（上位10項目）（複数回答）

（単位：%）



※ 県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」(R2)による。

■ 中山間地域の人口等の状況

- ・ 広島県全域、中山間地域ともに高齢化率が上昇傾向にあるが、中山間地域は、広島県全域に比べ、より高齢化率が高くなっている。
- ・ 中山間地域においては、人口動態を平成27（2015）年から令和元（2019）年までの平均値で見ると、減少数の約8割が自然減であり、人口減少の大きな要因となっている。
- ・ また、社会減は人口動態の約2割となっているが、広島県全域における社会減の割合や実数を大きく上回っており、転出超過の要因は、仕事（就職、転勤・転業）や就学（入学・転校）、婚姻を理由とするものが多いことから、若年層の転出が多くなっていると考えられる。
- ・ 中山間地域の推計人口は、平成27（2015）年から令和27（2045）年までの約30年間で約4割と、広島県全域に比べ大きな割合で減少することが見込まれている。

【表17】年齢（3区分）別人口構成

（単位：千人，％）

区 分		人 口	15歳未満	15歳以上～ 65歳未満	65歳以上
平成7年 (1995)	中山間地域 (全域過疎市町)	310	46 (14.8)	182 (58.7)	82 (26.5)
	広島県全域	2,882	467 (16.2)	1,956 (67.9)	456 (15.9)
平成17年 (2005)	中山間地域 (全域過疎市町)	279	33 (12.0)	154 (55.2)	92 (32.8)
	広島県全域	2,877	403 (14.1)	1,859 (64.9)	601 (21.0)
平成27年 (2015)	中山間地域 (全域過疎市町)	243	26 (10.8)	123 (50.5)	94 (38.7)
	広島県全域	2,844	376 (13.4)	1,663 (59.1)	774 (27.5)

※ 総務省「国勢調査」による。なお、各年齢区分の人口には年齢不詳人口を含んでいないため、合計とは一致しない。

【表18】人口動態（直近5年）

（単位：人，％）

区 分		平成27(2015)年 ～ 令和元(2019)年						増減計
		社会動態			自然動態			
		転入	転出	社会増減	出生	死亡	自然増減	
中山間地域 (全域過疎市町)	累計	41,825	46,347	▲4,522	6,779	21,627	▲14,848	▲19,370
	平均 (構成比)	8,365	9,269	▲904 (23.3)	1,356	4,325	▲2,970 (76.7)	▲3,874 (100.0)
広島県全域	累計	634,108	634,692	▲584	112,455	154,158	▲41,703	▲42,287
	平均 (構成比)	126,822	126,938	▲117 (1.4)	22,491	30,832	▲8,341 (98.6)	▲8,457 (100.0)

※ 県総務局「広島県人口移動統計調査(甲調査)」による。

【表19】社会動態の転入転出差引と移動の要因（主因者）（直近5年）

（単位：人）

区 分		平成27(2015)年～令和元(2019)年										
		就職	転勤・ 転業	退職・ 廃業	入学・ 転校	通勤・ 通学 の便	婚姻	子育て 環境上 の理由	介護	住宅	その他 ・不詳	計
中山間地域 (全域過疎市町)	累計	▲2,314	▲2,252	109	▲624	▲182	▲913	▲31	▲169	▲128	▲1,438	▲7,942
	平均	▲463	▲450	22	▲125	▲61	▲183	▲10	▲56	▲26	▲288	▲1,588
広島県全域	累計	▲8,046	▲5,499	524	▲4,190	▲44	▲899	47	51	11	▲3,728	▲21,773
	平均	▲1,609	▲1,100	105	▲838	▲15	▲180	16	17	2	▲746	▲4,355

※ 県総務局「広島県人口移動統計調査(乙調査)」による。

【表20】年齢（3区分）別人口構成の推計

（単位：千人，％）

区 分	平成27年 (2015)	推計人口						R27-H27 増減率
		令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	
中山間地域 (全域過疎市町)	243	226	208	192	176	161	147	▲39.5
0～14歳	26 (10.8)	23 (10.4)	21 (10.0)	19 (9.8)	17 (9.6)	16 (9.7)	14 (9.8)	▲46.2
15～64歳	123 (50.5)	109 (48.2)	98 (47.0)	90 (46.8)	82 (46.6)	73 (45.0)	65 (44.3)	▲47.2
65歳以上	94 (38.7)	94 (41.5)	90 (43.0)	83 (43.5)	77 (43.8)	73 (45.3)	68 (46.0)	▲27.7
広島県全域	2,844	2,814	2,758	2,689	2,609	2,521	2,429	▲14.6
0～14歳	376 (13.4)	364 (12.9)	344 (12.5)	326 (12.1)	311 (11.9)	301 (12.0)	291 (12.0)	▲22.6
15～64歳	1,663 (59.1)	1,621 (57.6)	1,579 (57.2)	1,533 (57.0)	1,466 (56.2)	1,359 (53.9)	1,283 (52.8)	▲22.9
65歳以上	774 (27.5)	829 (29.5)	835 (30.3)	831 (30.9)	832 (31.9)	860 (34.1)	855 (35.2)	10.5

※ 人口は総務省「国勢調査」、推計人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30.3)による。

■ 産業・雇用の状況

- ・ 中山間地域の総生産は、平成23（2011）年から平成29（2017）年までの7年間では微増となっており、特に第1次産業の約8割を占める農業において、経営力の高い担い手の育成や収益性の高い園芸作物への転換などを通じて生産額が大きく増加している。
- ・ 就業者割合については、広島県全域に比べ第1次産業の就業者割合が高いという特徴があるがその構成比は減少傾向にあり、代わって第3次産業の就業者割合が増加傾向にある。

【表21】市町内総生産の推移

（単位：百万円，％）

区 分		平成23年 (2011)	平成26年 (2014)	平成29年 (2017)	H29-H23差引(増減率)	
中山間地域 (全域過疎市町)	総生産	861,330	829,258	890,106	28,776	(3.3)
	第1次産業	35,463	34,766	41,734	6,271	(17.7)
	農業	29,897	28,832	35,817	5,920	(19.8)
	林業	2,619	2,702	2,676	57	(2.2)
	水産業	2,945	3,232	3,242	297	(10.1)
	第2次産業	334,968	313,218	362,483	27,515	(8.2)
第3次産業	490,891	479,562	488,164	▲2,727	(▲0.6)	
広島県全域		10,819,024	11,160,282	11,790,821	971,797	(9.0)

※ 県総務局「広島県市町民経済計算結果」による。「輸入税・その他」を含むため、総生産と各産業の合計値は一致しない。

【表22】就業者数（15歳以上）の状況

（単位：人，％）

区 分		平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	H27-H17差引(増減率)		
中山間地域 (全域過疎市町)	就業者数	141,428	126,837	119,283	▲22,145	(▲15.7)	
	構成比	第1次産業	17.2	14.5	14.3	▲2.9	
		第2次産業	27.5	24.9	25.4	▲2.1	
		第3次産業	54.7	56.7	58.3	3.6	
広島県全域	就業者数	1,398,474	1,343,318	1,336,568	▲61,906	(▲4.4)	
	構成比	第1次産業	4.3	3.3	3.1	▲1.2	
		第2次産業	27.2	25.3	26.8	▲0.4	
		第3次産業	66.9	66.6	67.7	0.8	

※ 総務省「国勢調査」による。分類不能があるため、構成比の合計は100%にならない。

■ 農林水産業の状況

- ・ 農業産出額は、昭和63（1988）年から平成27（2015）年までの約30年間で、広島県全域が約2割減少している中、中山間地域では微増しており、特に平成18（2006）年以降の10年間では、約2割の増加となっている。
- ・ 経営耕地面積は、農業従事者の高齢化や後継者の不在等により、広島県全域、中山間地域ともに大きく減少している。

【表23】 農業産出額の状況

（単位：千万円，％）

区 分	昭和63年 (1988)	平成9年 (1997)	平成18年 (2006)	平成27年 (2015)	H27-S63差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	6,869	6,510	5,627	6,924	55 (0.8)
広島県全域	13,736	12,241	10,690	11,578	▲2,158 (▲15.7)

※ 農林水産省「広島農林水産統計年報」による。

【表24】 経営耕地面積の状況

（単位：ha，％）

区 分	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	H27-H12差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	25,310	22,384	19,866	17,296	▲8,014 (▲31.7)
広島県全域	48,231	41,916	37,367	31,912	▲16,319 (▲33.8)

※ 農林水産省「世界農林業センサス」及び「農林業センサス」による。

■ 商工業の状況

- 事業所数は、広島県全域、中山間地域ともに減少しているが、中山間地域は、広島県全域に比べ減少割合が大きくなっている。
- 中山間地域の製造業は、平成12（2000）年以降、事業所は約5割、従業者数は約2割減少している。また、製造品出荷額は、平成20（2008）年9月のリーマンショック以降、回復基調で推移している。
- 中山間地域の小売業は、平成9（1997）年以降、商店数は約5割、就業者数及び年間商品販売額はそれぞれ約3割減少している。
- 総観光客数は、平成30（2018）年7月豪雨災害の影響による減少から回復し、広島県全域及び中山間地域とも、平成23（2011）年から令和元（2019）年までの9年間で約2割増加している。

【表25】 事業所数の状況

（単位：事業所，％）

区 分	平成8年 (1996)	平成18年 (2006)	平成28年 (2016)	H28-H8差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	19,248	16,241	13,327	▲5,921 (▲30.8)
広島県全域	154,936	139,038	127,057	▲27,879 (▲18.0)

※ H8・H18は総務省「事業所・企業統計調査」による。H28は総務省/経済産業省「経済センサス」による。

【表26】 製造業の状況

（単位：事業所，人，百万円，％）

区 分		平成12年 (2000)	平成21年 (2009)	平成30年 (2018)	H30-H12差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	事業所数	1,250	800	681	▲596 (▲45.5)
	従業者数	29,973	22,289	23,954	▲6,019 (▲20.1)
	製造品出荷額等	740,107	505,624	750,058	9,951 (1.3)
広島県全域	事業所数	7,548	5,638	4,802	▲2,746 (▲36.4)
	従業者数	225,361	205,008	216,899	▲8,462 (▲3.8)
	製造品出荷額等	7,217,674	7,917,797	10,040,407	2,822,735 (39.1)

※ 経済産業省「工業統計調査」による。

【表27】小売業の状況

(単位:事業所,人,百万円,%)

区 分		平成9年 (1997)	平成19年 (2007)	平成28年 (2016)	H28-H19差引 (増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	商店数	5,041	3,830	2,622	▲2,419 (▲48.0)
	就業者数	18,165	18,087	13,575	▲4,590 (▲25.3)
	年間商品販売額	327,239	270,881	244,532	▲82,707 (▲25.3)
広島県全域	商店数	33,892	27,035	20,196	▲13,696 (▲40.4)
	就業者数	176,774	177,092	154,664	▲22,110 (▲12.5)
	年間商品販売額	3,548,792	3,115,061	3,220,269	▲328,523 (▲9.3)

※ H9・H19は経済産業省「商業統計調査」による。H28は総務省/経済産業省「経済センサス」による。

【表28】総観光客数の状況

(単位:千人,%)

区 分	平成23年 (2011)	平成27年 (2015)	令和元年 (2019)	R1-H23差引 (増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	12,955	15,564	15,434	2,479 (19.1)
広島県全域	55,322	66,176	67,194	11,872 (21.5)

※ 一般社団法人広島県観光連盟「広島県観光客数の動向」による。

【表29】観光消費額の状況

区 分		平成23年 (2011)	平成27年 (2015)	令和元年 (2019)	R1-H23差引 (増減率%)
中山間地域 (全域過疎市町)	総 額 (百万円)	19,075	22,305	28,325	9,250 (48.5)
	1人当たり 消費額 (円)	1,472	1,433	1,835	363 (24.7)
広島県全域	総 額 (百万円)	304,498	386,489	440,960	136,462 (44.8)
	1人当たり 消費額 (円)	5,504	5,840	6,562	1,058 (19.2)

※ 一般社団法人広島県観光連盟「広島県観光客数の動向」による。

■ 生活環境の状況

- ・ 中山間地域における道路舗装率や水洗化率などの生活インフラは、広島県全域との差が解消しつつある一方で、学校、公民館などの公的施設は、人口減少に伴い、施設の廃止や統廃合などによる集約化が進展している。
- ・ 広島県全域の医師数は増加傾向で推移しているが、中山間地域の医師数は減少傾向にある。また、病院、診療所は、中山間地域において、ともに減少傾向にある。
- ・ 中山間地域の自動車（軽自動車を含む）の保有率は、広島県全域より高く、8割を超えており、移動手段として自家用車への依存度が高いと考えられる。

【表30】施設の整備状況

(単位:%)

区分	市町道・道路舗装率			水洗化率		
	中山間地域 (全域過疎市町)	広島県全域	差引	中山間地域 (全域過疎市町)	広島県全域	差引
平成 21年(2009)	80.2	85.0	▲4.8	67.5	85.9	▲18.4
平成24年(2012)	82.8	86.2	▲3.4	69.3	87.9	▲18.6
平成27年(2015)	83.6	87.9	▲4.3	70.9	89.5	▲18.6
平成30年(2018)	85.6	88.8	▲3.2	77.1	90.9	▲13.8

※ 県土木建築局、環境県民局調べによる。

【表31】学校数等の状況

(単位:校,施設,%)

区分		平成21年 (2009)	平成24年 (2012)	平成27年 (2015)	令和元年 (2019)	R1-H21差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	小学校数	143	125	105	86	▲57 (▲39.9)
	中学校数	52	51	48	46	▲6 (▲11.5)
	公民館数	61	45	42	30	▲31 (▲50.8)
広島県全域	小学校数	577	549	508	479	▲98 (▲17.0)
	中学校数	282	280	272	268	▲14 (▲5.0)
	公民館数	346	294	271	242	▲104 (▲30.1)

※ 県総務局「学校基本調査」及び県教育委員会調べによる。

【表32】 医師数の状況

(単位:人, %)

区 分	平成10年 (1998)	平成20年 (2008)	平成30年 (2018)	H30-H10差引(増減率)
中山間地域 (全域過疎市町)	564	503	471	▲93 (▲16.5)
広島県全域	6,427	6,864	7,609	1,182 (18.4)

※ H10・H20は厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」, H30は「医師・歯科医師・薬剤師統計」による。

【表33】 医療施設の状況

(単位:施設, %)

区 分		平成10年 (1998)	平成20年 (2008)	平成30年 (2018)	H30-H10差引(増減率)	
中山間地域 (全域過疎市町)	病院	33	30	27	▲6 (▲18.2)	
	診療所	一般	255	238	216	▲39 (▲15.3)
		歯科	130	130	121	▲9 (▲6.9)
	病床数	5,603	5,262	4,254	▲1,349 (▲24.1)	
広島県全域	病院	272	256	240	▲32 (▲11.8)	
	診療所	一般	2,547	2,617	2,550	3 (0.1)
		歯科	1,378	1,537	1,548	170 (12.3)
	病床数	48,958	46,364	42,241	▲6,717 (▲13.7)	

※ 県健康福祉局調べによる。

【表34】 乗用車(軽乗用車を含む) 保有の状況

(単位:台, %)

区 分	平成20年 (2008)		平成30年 (2018)		H30-H20差引	
	保有台数	保有率	保有台数	保有率	保有台数	保有率
中山間地域 (全域過疎市町)	228,207	85.0	207,177	89.4	▲21,030	4.4
広島県全域	1,836,116	64.0	1,799,720	63.8	▲36,396	▲0.2

※ 中国運輸局広島運輸支局の資料及び県総務局調べによる。また、保有率は県総務局「広島県人口移動統計調査(甲調査)」の人口により算出した。

【表35】 営業用バス(乗合) 輸送人員数の状況

(単位:千人)

区 分	昭和45年 (1970)	平成3年 (1991)	平成20年 (2008)	平成30年 (2018)	H30-S45差引
広島県全域	281,465	187,273	111,653	97,009	▲184,456

※ 国土交通省「自動車輸送統計調査」による。

■ 移住の動向

- ・ 若い世代の地方移住への関心の高まりを背景に、本県では、平成26（2014）年10月に、東京有楽町の東京交通会館に移住相談窓口を設置した。
- ・ 窓口には県職員の相談員を配置し、移住関連情報を提供するだけでなく、企業や地域とのマッチングを行うなど、相談者の移住に向けた行動を具体的にサポートすることにより、相談件数や移住世帯数は年々増加している。また、令和元（2019）年は、移住希望地域ランキング（認定NPO法人ふるさと回帰支援センター公表）で全国2位となった。

【表36】 県外から広島県への移住相談及び実績（広島県全域）

（単位：件、世帯）

区 分	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
相談件数	816	1,441	2,195	2,613	2,882	3,188
移住世帯数	68	109	149	161	177	199

※ 県内各市町の定住所管部署において把握した数値による。

【表37】 県外からのUIターン転入者数（全域過疎市町）

（単位：人）

区 分	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
転入者数	284	330	262	279	271

※ 県地域政策局調べによる。

【表38】 移住希望地域ランキング

区 分	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	
広島県順位	ランキング外	18位	6位	4位	4位	6位	2位	
順位	1位	長野県	山梨県	長野県	山梨県	長野県	長野県	長野県
	2位	山梨県	長野県	山梨県	長野県	山梨県	静岡県	広島県
	3位	岡山県	岡山県	島根県	静岡県	静岡県	北海道	静岡県
	4位	福島県	福島県	静岡県	広島県	広島県	山梨県	北海道
	5位	熊本県	新潟県	岡山県	福岡県	新潟県	新潟県	山梨県
	6位	高知県	熊本県	広島県	岡山県	福岡県	広島県	福岡県
	7位	富山県	静岡県	高知県	大分県	岡山県	福岡県	新潟県
	8位	群馬県	島根県	秋田県	新潟県	福島県	富山県	佐賀県
	9位	香川県	富山県	大分県	長崎県	宮崎県	宮崎県	高知県

※ 認定NPO法人ふるさと回帰支援センターによる。20位までランキング公表。

付記 住民意識調査の実施方法

本計画における住民意識調査は、次により実施した。

1 調査名

中山間地域に関する住民意識調査

2 調査期間

令和2年4月～5月

3 調査対象先

- ・中山間地域（府中市，庄原市，安芸高田市，江田島市，安芸太田町，大崎上島町，世羅町）在住の18歳以上の個人
- ・都市部（広島市，福山市）在住の18歳以上の個人

4 調査方法

住民基本台帳に登録されている18歳以上の方から，単純無作為により対象者を抽出し，郵送により調査票を送付回収した。

5 有効回答数等

(1) 市町別

(単位:人, %)

区分	配布数	有効回答数 (回答率)
中山間地域	府中市	697 351 (50.4)
	庄原市	642 386 (60.1)
	安芸高田市	514 290 (56.4)
	江田島市	425 226 (53.2)
	安芸太田町	220 129 (58.6)
	大崎上島町	220 143 (65.0)
	世羅町	282 166 (58.9)
	市町不明	- 9 (-)
	小計	3,000 1,700 (56.7)
都市部	広島市	1,000 494 (49.4)
	福山市	1,000 545 (54.5)
	市町不明	- 4 (-)
	小計	2,000 1,043 (52.2)
合計	5,000 2,743 (54.9)	

(2) 年齢別

(単位:人, %)

区分	中山間地域 (構成比)	都市部 (構成比)	合計 (構成比)
20代以下	179 (10.6)	79 (7.6)	258 (9.5)
30代	164 (9.7)	96 (9.3)	260 (9.5)
40代	217 (12.8)	161 (15.5)	378 (13.9)
50代	212 (12.5)	156 (15.0)	368 (13.5)
60代	311 (18.4)	189 (18.2)	500 (18.3)
70代	299 (17.7)	222 (21.4)	521 (19.1)
80代以上	308 (18.2)	134 (12.9)	442 (16.2)
不詳	10 (-)	6 (-)	16 (-)
合計	1,700	1,043	2,743